

## ■（１３９）世界の感覚の違いを反映？ 原発・五輪の風刺漫画問題

東京五輪の決定を受け、仏週刊紙が掲載した風刺画に政府が抗議する事態となっている。爆発した原発施設を背景に、手足が３本の力士が相撲をとる絵で、同紙はテレビ局の取材に「原発事故が収束しない中、五輪開催は問題と指摘した」と意図を説明したという。

趣味の悪いイラストだが、ある意味、欧州人の心情を代弁しているかもしれない。五輪決定前の公式会見でも、日本側への質問は原発事故に集中した。「汚染水の影響は港湾内で完全にブロックされている」との首相の答弁に、福島を中心に違和感を覚えた人も少なくないようだ。そんな政府の「国際公約」が守られるかをチェックするのも報道の使命となる。数日後、除染作業で生じた汚染水が排水溝を通じて海に流れ出た可能性が判明した際、原発事故問題に厳しい論調を張るブロック紙は「首相説明破綻」と批判した。風刺漫画とは異なり、新聞は、誇張するような書き方はせず、事実の積み上げで訴えようとする。

仏国は風刺が好きなのか。７年前には、別の週刊紙のイスラム教予言者の風刺画も国際問題に発展した。同紙主張の「表現の自由」は裁判でも認められた。権利感覚も様々だ（山）